

知ってクレ!

呉市の小中一貫教育

令和4年度第3号
令和4年12月1日発行
呉市教育委員会学校教育課
小中一貫教育指導グループ



異学年交流 特集!

年上の子は、年下の子をいたわり、守る。
年下の子は、年上の子に感謝し、憧れる。



かつては、近隣の子供同士や家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して身に付いてきたもの。

このような異年齢の子供たちが触れ合う機会が減少している今だからこそ、改めて、各中学校区で「異学年交流」について見直していきたいものです。

今回紹介する2つの中学校区には、子供の思いに寄り添い、子供に委ねようとする教師の姿があります。

知ってクレ!

広南中学校区 児童生徒が主体!

教師はファシリテートに徹する!

毎年、9年生は、地域の方々から、「尺八・箏・着付け・書道」の日本の伝統文化についてそれぞれ教えていただき、その学びを5年生に伝えています。

生徒が考えるために、教師の指示を減らす!

9年生は、5年生との交流で、何を目標とし、何をどのように伝えるかを考えながら準備を進めました。その生徒の姿を教師は見守り、ファシリテートに徹するようにしました。

ファシリテートとは
子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくこと。

書道を選んだ5年生は、「匠の授業」をずっと楽しみにしてくれていたようで、「書道好きじゃけん、これ選んだんよ。」と笑顔で話してくれる子や苦手だから挑戦してみた子もいました。
小学生と一緒に活動しながら、書道の魅力や楽しさを知ってもらうことができて嬉しかったです。【9年生の振り返りから】



【担当指導主事より】

かつて「地域」で行われた異学年の交流を「中学校区」で行っている事例です。

生徒に自己有用感をもたせる取組にするために、教師が「指導者」から「ファシリテーター」へと変わっていく。児童生徒と共に、教師が成長する取組となっています。



知ってクレ!

警固屋中学校区 「創作スーパー神楽」

存続の危機を救うのは子供たち!

21年続く「創作スーパー神楽」は、警固屋学園で、4・9(よくばり)交流として受け継がれた伝統です。ところが、今年、修理しながら使い続けた「龍」が、ついに修理不可能となったのです。

本当に存続すべき?小学生にも聞こう!

課題解決の第一関門は、存続するか否か。交流相手の4年生にアンケートをとり、存続することを決定。「神楽を存続すべき?」という課題に向け、9年生と4年生が思いを共有できました。これから、解決に向け、9年生が動きます。今年だからできる、4・9交流となりました。



【存続のためのあゆみ】

- ① 9年生が話し合い、「次の代に伝えていく」ことを決意。
- ② 伝統を受け継ぐことについて、4年生にアンケート実施。
- ③ 4・9年生互いの思いから存続を決定!
- ④ 解決に向けた情報収集

【担当指導主事より】

現状から、子供たちが問いを生み出し、子供たちが存続について考え、子供たちの意志で存続していく。そこに、小学生の声を反映させるというアイデアに感心しました。

小・中学生が共に課題解決していく取組であり、異学年交流のよさが生かされた取組です。



<どなたでも>

呉市教育委員会
学校教育課 HP に掲載



<呉市の先生>

ロイロノートスクールの資料箱に保存
【先生のみ】→【教育委員会】→【小中一貫教育だより】